

第1回 玉野市総合計画策定検討会 議事概要

日時	令和4年9月26日(月) 14:00~16:00	
場所	玉野市役所 大会議室	
出席者	中村 聡志 (山陽学園大学 教授)	浜口 誠 (玉野市社会福祉協議会)
	城戸 清宏 (玉野市老人クラブ連合会)	竹村 篤 (玉野市障害者総合支援協議会)
	平木 由美 (玉野市民生委員児童委員協議会)	渡邊 正俊 (玉野市医師会)
	浅野 透 (玉野市歯科医師会)	浅野 聰子 (玉野市栄養改善協議会)
	岡崎 文代 (玉野市愛育委員協議会)	山口 正 (玉野市文化協会)
	桑原 泰二 (玉野市スポーツ協会)	山根 一人 (玉野商工会議所)
	大本 敏文 (玉野地区労働者福祉協議会)	岡本 章弘 (玉野市観光協会)
	江田 康夫 (玉野市コミュニティ協議会)	東 りえ (玉野SDGsみらいづくりセンター)
	中根 正雄 (玉野市消防団)	小林 弘昌 (公募委員)
	亀田 稔 (公募委員)	
欠席者	中塚 俊道 (玉野市PTA連合会)	
事務局	柴田 義朗 (市長)	市倉 勇樹 (副市長)
	中嶋 英生 (政策部長)	山田 豊伸 (総合政策課長)
	高橋 千恵 (総合政策課長補佐)	
傍聴人	3人	

議事の概要

1 開会

2 開会あいさつ

3 委員の紹介

4 座長及び副座長選出

事務局 : 玉野市総合計画策定検討会設置要綱第4条に基づき、委員の互選により検討会の座長及び副座長を定めることとしている。

事務局からの提案だが、座長は、山陽学園大学教授の中村聡志委員に、副座長は、玉野市社会福祉協議会の浜口誠委員にお願いしたいと思うがいかがか。

全委員 : (意義なし)

事務局 : ご異議がないようなので、中村委員に座長を、浜口委員に副座長をお願いする。それでは、会議の議事進行については、検討会設置要綱第5条の規定に基づき、中村座長にお願いする。

5 議 事

事務局 : (1)総合計画策定に係る現状把握分析 最終報告書
(2)第1回たまの未来会議の開催状況
(3)総合計画骨子(案)について
(4)第2期たまの長期人口ビジョンについて
(5)新たな総合計画の策定スケジュール

※資料により説明。

A委員 : ただいまの事務局からの説明について質問等はあるか。

B委員 : 健康で住みやすいまちづくりを目指しているが、小児医療費公費負担制度の県内の市町村の状況は、18歳まで公費負担がされているところが多い。18歳までの公費負担ができれば、さらに住みやすいまちであると認知されたいと考える。また市で行っている歯科検診のうち、妊婦健診と歯周病検診を受ける人が非常に少ない。骨太の方針にも歯科検診の充実があげられているが、既にそのような取組をしている自治体もある。少子高齢化、人口減少は分かっていることなので、人口を増やすためにも住みやすいまち、長生きできるまちということで考えてほしい。

C委員 : 資料で医療施設への要望が多いことを痛感した。若い方たちの意見でもあったが産科の充実が必要であるし、若い方たちがたまの未来会議で議論したことは非常によいと思う。2025年問題もあり高齢者が増える中で、若い方たちが玉野を引っ張っていかなければいけない。その若い方たちが人生の終盤まで考えられるような、生活圏としていけるような玉野を作っていかなければならないと思っている。そのためには職業的に住みにくくなっている中で、観光のまちとして観光に特化した何かを充実していかないといけない。瀬戸内国際芸術祭の会期だけでなく、常に観光のまちとして充実を図っていただきたいと考えている。

D委員 : 観光のまちという意見があったが、観光協会、玉野市が中心となっていかなければいけないと思っており、特に観光協会は発信力を強化するのが大切な仕事と思っている。観光の資源が充実していること、天候がよいこと、ホテルやキャンプ場といった受け入れ体制が増えるなど、ポテンシャルは上がっている。先日の企業の誘致の話も玉野市のポテンシャルが高かったからではないかと思っている。また玉野市が横の繋がりとしてサテライトオフィスの誘致なども取組んでいるので、仕事が増えていき社会減が収まるのが大切だと思っている。それが結婚・子育てにも繋がっていき人口減少対策になってくると思うので、さらにポテンシャルを上げられるよう知恵を出し合っていきたい。

E委員 : たまの未来会議でも「玉野と言えば〇〇といった文化がない」という課題があがっている。骨子案でも文化芸術に関して記載されているが、玉野市にはそういったものに触れる場所がなく、それに対する施策・方法が見受けられないことについて今後検討していただきたいと思う。

F委員 : 結婚・出産・子育てにおいて、玉野市は医療にしても教育にしても優遇さ

れている。子育てしやすいまちだということを若い方たちにもっと宣伝していいと思う。

B委員 : 国土交通省のウォークアブルシティという構想もあるが、市外の方に市営の駐車場の料金を免除するなどして、王子が岳や渋川海岸、宇野港などに車を停めて周辺を歩くといったことが観光においても良い方法でないかと思う。

G委員 : 転出していく人について調査をしているが、高校生は大学進学や大学を出るときに他市に住んでしまう。高校生にアンケートを取ると玉野市の魅力を実感すると玉野市に住み続けたいという意見が多数あった。地域が高校生に関わって魅力を伝えていくといった関係性が重要なのではないかと思う。高校生が地域と一緒に活動して玉野市の魅力を伝えて、他県他市に進学しても将来的にはUターンなどで帰ってくるような計画も組み入れてほしい。高校生も自分の意見を持っているので、20代に限った未来会議だけでなく、もっと若い世代の会議も行ってほしい。移住者の方は玉野市を俯瞰的に見ており、玉野市の素地を生かし切れていないといったことも言われるので、移住者の方に限った会議を行っても良いかと思う。未来会議の10名という数も少ないように思われる。

C委員 : 20代の人たちが玉野を出ていかなくははいけなくなった理由を知りたい。

G委員 : 20代はわからないが、高校生は市内4校、約900名のアンケートで「卒業後に玉野で住み続けたい」と答えたのは3割しかいなかった。7割は外に出て行きたいと答えている。

C委員 : それは職業的な問題か。

G委員 : それについてはわからない。玉野に興味がないという回答もあった。

C委員 : 住み続けたいがそういった環境にないので、玉野をもっと魅力あるものにしなければいけないということか。

H委員 : 子どもが小さい時は福祉等が充実しているが、中学・高校になり将来のことを考えると、大学進学などにも便利が悪く、市外のほうが便利だという意見があった。また高齢者からは、シーバス、シータクもルートから離れた場所に住んでいると使いづらく、タクシーの補助のほうが良いという声もある。福祉も充実しているが、小さいことでの不便さも聞く。小さい声も拾ってほしい。

I委員 : 子どもが高校受験する時に、岡山の高校へは非常にアクセスが悪くて市内の高校に進学するといったこともある。アクセスが悪いというのは利便性だけでなく、教育環境として高校・大学に進学する時にネックになると思う。これから人口が減れば公共交通機関の利用者も減り、さらに利便性が悪くなると想定される。その中で若者に玉野に住んでもらうためにはどうするかを考えていくことは重要だと考える。玉野市は岡山市・倉敷市に囲まれており、利便性を岡山市・倉敷市と同等にするのは不可能だと思う。特筆すべき点をアピールして玉野市の良さを出していかなければいけないということを理解しながら、岡山市・倉敷市に勝っているところや特筆すべきところを議論

して、玉野市をよりよいものにしていくというのも考え方の1つだと思う。転出については、子どもが少ないのでしっかりした経験ができる教育環境が出来づらく、岡山市などに住んだほうが高校大学にも進学しやすいと現実的には思われる。学校の統廃合の話もあるが、教育環境を良くするという面で進める必要があるかと思う。働く場所については、結婚する際に女性の方の職場に近いところに住む傾向があるので、男女ともに働ける雇用の場がなければ転出をする機会が増えるのではないかという視点も必要と思われる。

J委員 : 瀬戸内国際芸術祭で県外から来る人を見ても、観光の重要性を感じている。大阪万博などでも瀬戸内海が世界へ発信されていく機会があると思うので、瀬戸内海も玉野市の魅力の1つと考える。アンケートでも悪くなった取組としてシティセールスの推進がでているので、今後どういった施策を取るのか示していただければと考える。

K委員 : 重点プロジェクトがCCRseaだったが、廃止になった理由と反省点を聞きたい。骨子案ではSDGsの推進がCCRseaの代わりとなっているようだが、SDGsの推進体制はどうなっているのか。また基本計画に地域づくりの方向性があるが、前回廃止したと思うがなぜ復活させたのかを聞きたい。また施策の体系図で施策についている指標についての説明がなかったが、指標の数が前回とどう変わったのか変更の理由も聞きたい。

事務局 : 体系図について、指標の数は現在取りまとめ中で最終的な数字は出ていない。次回の1月の検討会でお示しできるかと思う。地域づくりの方向性については現状と大きく変えるものではない。前々回の総合計画には委員ご指摘のとおり細かく記載したものがあつたが、現在の計画にはなく今回も同様に各地域別の計画を出す予定はない。SDGsについてはCCRseaの代わりにSDGsを位置づけるものではない。SDGsに関しては基本計画の各施策と17の目標を位置づけることで、国のSDGsのアクションプランの取組を取り入れている。CCRseaについては現在第2期の計画期間に入っている。第1期の計画では事業推進主体を置いてローカルブランディングやヘルスケアサービスに取り組むことで生涯活躍のまちの拠点の形成を進めてきた。市議会等でも成果に関する指摘があり反省する部分もあるかと思うが、直接的ではないが宇野駅周辺での宿泊事業や飲食店舗の広がりをはじめとする波及効果があつたと考えている。CCRseaの本来の目的である民間からの投資の誘発を図り、消費の拡大・活性化につなげるということに関してはある程度の効果はあつたかと考えている。

K委員 : CCRseaはいつ廃止になるのか。なぜCCRseaがうまくいかなかったのか。

事務局 : CCRseaは現在第2期計画が推進中であり、第2期では既存の玉野市の健康増進、観光振興の事業にシフトしているのでCCRseaが廃止になったものではない。前はCCRseaを重点プロジェクトに位置づけていたが、新しい計画では重点プロジェクトそのものの枠組みをなくしている。CCRseaで出来た成果は新しい総合計画でも活用していくように考えている。SDGsに関してはCCRseaとは別物であり、国連の中で世界的な取組として持続可能な

社会を作っていくという取組を玉野市でも取り入れていくものであり、今後分野別の計画がSDGsの17の目標のどれに該当するかを関連づけて進めていこうというものである。

L委員 : 交通の計画についてはこのままでいくのか、何らかの計画があるのかうかがいたい。また企業誘致が大事だと考えるが総合計画には見えないので、それがあるなら教えていただきたい。

市長 : 交通アクセスについては、これまでも国・県にアクセス向上の要望を行っており今年も要望を伝えているが、これは玉野市の手を離れて岡山市・倉敷市での事業が必要となり簡単ではないが粘り強くすすめていきたい。企業誘致については公約の中にも掲げている。今後も取組んでいく。

M委員 : 8年計画として、大変項目の多いこの基本構想の列挙・整理から4年が経過している。しかし、半分と言わず、ほとんどが実行できてないと思う。これだけ多くの課題を進行するには、総合政策課などの限られたスタッフでは無理で、民間や企業等、場合によっては市民も参画して実行部隊を組む必要がある。要は、本会議で基本構想の良し悪しや評価等を論じるよりも、どういったチームを編成し、どういう方法で実行・完了させるかだ。

N委員 : 文化協会は玉野の魅力づくりのバックグラウンドのようなものであると思う。各部会では趣味の域を超えた方々がおり、それぞれ活躍している。アピールの仕方は難しいが頑張っている。また私が住む地域は道路も良くなり、海水浴場もあり、多目的広場などもあるが子どもが居着いてくれず、周りも空き家が多い。理由としては道路の側はいいがそこから外れると家まで車が横付けできない。そういった地域性を考えていただいて、限界集落にならないようお願いしたい。

O委員 : スポーツ協会で数年前全国の方とお会いする機会があったが、玉野の場所を知らない方が多かった。それが若い方が玉野離れする要因の一つと思われる。県下では赤磐市のホッケー場などがスポーツで全国の選手が訪れる場所になっている。玉野市にはそれがなく知名度を高める必要があると考える。また昭和30年代から市が様々なスポーツ施設を作ってきたが老朽化しており、全国的な大会を誘致しようとしても駄目だといわれる。市民参加の大会など、健康増進の一環ともなるのでそういった施策を考えていただければと思う。

P委員 : 地域のことだが荘内地区では10年ほど前に商業施設を誘致するという話があったがそのままになっている。新たに誘致すれば雇用の場にもなり、市の税収にもなると期待しているがそのままになっている。すぐ近くには保育園もあり若い母親の就労の場にもなるので、新しい企業を誘致してほしい。荘内地区は人口も子どもも多いので、子ども達があそこで育ってよかったと思える地域になればと思うのでそういった施策で力を貸してほしい。

Q委員 : 岡山県内の高校生に進学ガイダンスに行くと玉野市がどこにあるか知らない、行ったことがないという声が多く、マイナスのイメージを持っていることを残念に思っている。障害がある方が暮らしやすいかがアンケート

トにあるが、指標でも障害者に就労については未達成となっている。コロナの影響を受けていると思われるが、障害者が自立するのは仕事やボランティアなどの役割を持つことで、リハビリの究極の目標も就労であるので、障害者の方の社会参加に繋がるようなになればと思う。

R委員 : 老人会では市民会館のような集いをする場所がないため、行事をすることができないということで困っているが、計画には具体的なものがない。何か指標となるものを掲げて、進めていることを市民に分かりやすい形で示してほしい。市民会館についてはなるべく早くしてほしい。また資料の指標の達成状況を見ると達成率が50%にも満たないことに驚いている。もう少し意識して市民が納得できるような数字にしていきたい。

S委員 : 玉野市においても少子高齢化社会がしばらく続く見通しであるが、地域の高齢者が困っているのが通院と買い物の交通手段で、シータク、シーバスがあるが目的地まで行くのに時間がかかる。高齢者の意見などを聞いて見直しをいただき、さらに利便性を上げていただきたい。

A委員 : これから素案を作るにあたって各方面から意見をいただいた。地域は生活の場が根本にあり、生活を続けるために仕事やまちの環境、人々の問題をどうするか施策・取組として出てくると思うが、本日はどのように生活ができるかという観点から意見をいただき、玉野の課題の本質が出てきたと思う。特に印象的なのは子育てなどの問題点はあるが、ある程度は出来ているがそれでカバーしきれない部分があって若い世代が出ていく。医療や教育の問題などで、岡山・倉敷の都市圏まで考えないと転出をカバーできないことが見えてきたと思う。なぜ玉野市から出て行くかを注視して、もう少し踏み込んだ分析が必要ではないかと思う。人口の動態を見ると玉野市の場合は若い人もそうだが30代全般の方も市から出ていって、これが90年代からずっと続いている。赤磐市や総社市はその辺りの年代で人が入ってきている。この世代が出て行った後、人口動向は動かないので、そういった方々をどう定着させるかが重要である。また岡山市・倉敷市の方たちにどう玉野市に住んでもらうかという視点も大事になってくる。玉野市といえばこれだという文化やスポーツなどのキーワードがないという話があったが、玉野のライフスタイルのようなものが大きなポイントになってくるかと思う。交通や教育、医療の問題がベースとなるが、その上に玉野のライフスタイルが大事なのではないかと思う。M委員からあったやり方を検討してほしいということについては、市だけで何でも出来るという時代ではないので、企業、住民、団体と連携をとって協働の姿勢を打ち出さなければならないかと思う。本日の意見を踏まえて素案の作成をお願いしたい。

7 閉 会